

**活動を多拠点で
展開するための知恵**

元気スクール・グループ

通所型Bの運営団体 元気スクール
(自分達の)立ち位置 (念のため)

一般介護予防

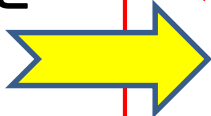
隙間を埋める制度

通所型Bの運営団体
元気スクールグループ

デイサービス

通所型サービスBとは

通所型 サービスA	通所型 サービスB	通所型 サービスC
<u>緩和した基準サービス</u> (資格など)	<u>住民主体による支援</u> (ボランティア)	
(デイサービス等)		
事業者指定・委託	補助(助成)	
<u>状態を踏まえながら</u> 【住民主体支援】を 促進する	利用者の増加	



基準	現行の通所介護相当	多様なサービス		
サービス種別	① 通所介護	① 通所型サービスA (緩和した基準)	① 通所型サービスB (住民主体の支援)	① 通所型サービスC (短期集中予防)
サービス内容	通所介護と同様のサービス	ミニデイサービス 運動・レクリエーション等	体操、運動等の活動など、自主的な通いの場	
対象者とサービス提供の考え方		○状態等を踏まえながら、住民主体による支援等多様なサービスの利用を促進		
実施方法	事業者指定	業者指定//委託	補助(助成)	直接実施//委託
基準	予防給付の基準を基本	人員等を緩和した基準	個人情報の保護等の最低限の基準	内容に応じた独自の基準
サービス提供者(例)	通所介護事業者の従事者	主に雇用労働者+ボランティア	ボランティア主体	保健・医療の専門職(市町村)

介護保険財政への貢献

	利用限度額 (1月)	同左 (1年間)	公費負担額 (90%)
要介護1 (1名)	166,920円	2,223,040円	1,802,736円

デイサービスに通う「要介護1」の人が「通所型B」に通う様に改善出来れば公費負担額が年間180万円程度軽減する可能性がある。

個人が現金で寄付は出来ないがこの運動に参加すれば出来る？

方針の転換

従来は

- ① 自主グループとして質を重視

今後は

②通所型Bとして量も求められる

従来は自主グループとして結成したため
地域的には狛江市北部に集中し、
南部は皆無でありこの地域に団体を
新設して狛江市全域への展開が求められる。

従来求めて来た質を維持しながら

「ビデオそのもの」がPR

- ①市長がPR ユニフォーム
- ②五本指つぼプリントソックス 足裏反射区とセット
- ③個人名入り手帳
- ④クリアファイル・豆本等

市長が「PR して下さる」と云われた 「Tシャツ」

【利点】

- ①着て行く物の心配が無い
- ②仲間と同じで、安心で連帯感が生まれる(スポーツのユニフォーム)
- ③運動しやすい
- ④開催日の往復で、会った人に質問されPR効果がある

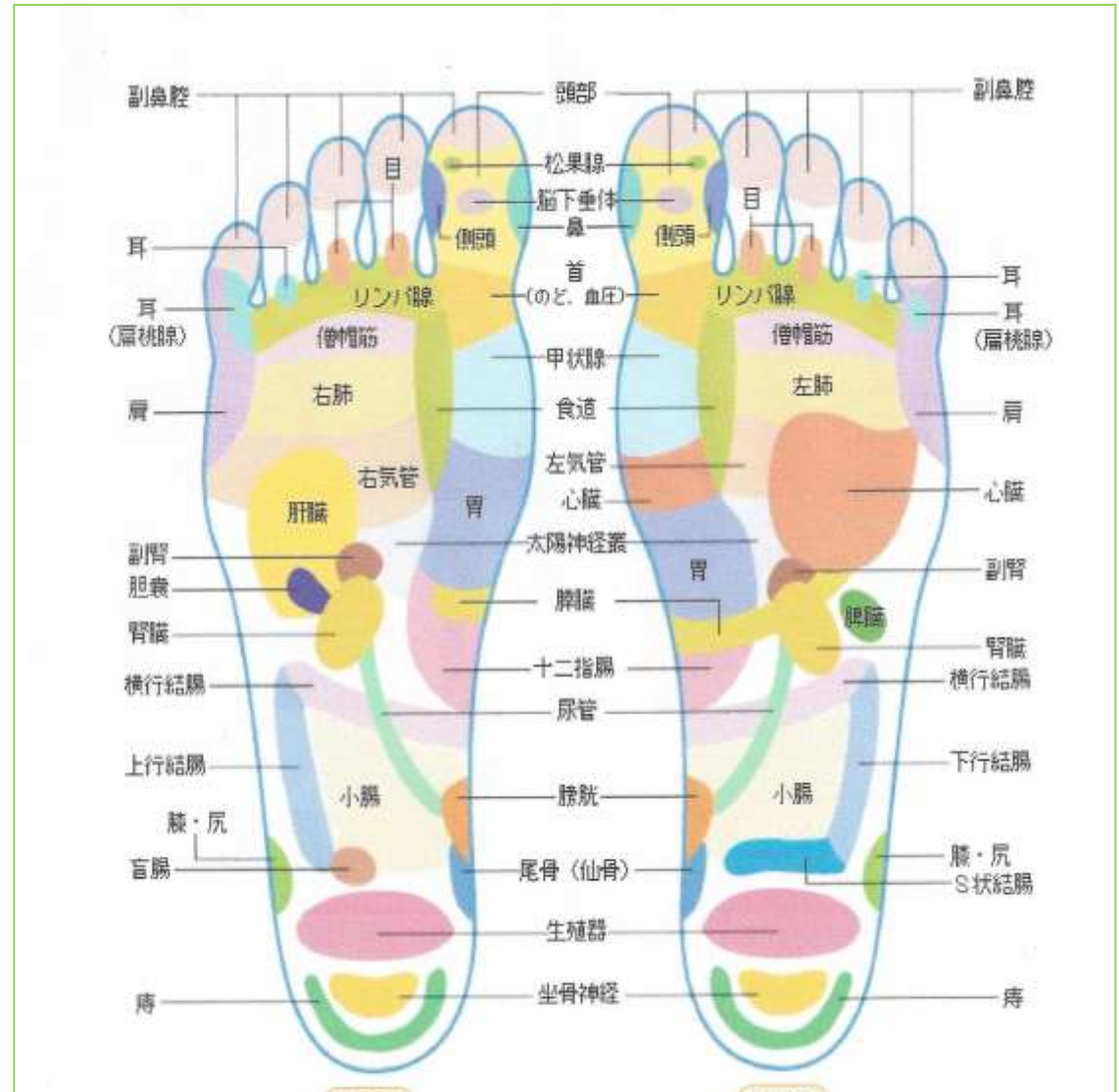
【貸与とする理由】

高齢者は体調・環境(老々介護)で退会者が出やすいので不測の負担を避けたい



足裏反射区・五本指ソックス

つぼプリント



個人名入り手帳の配布



今迄の展開は質を重視し 積極的とは言えない

1.野川元気スクール

自主グループ

2.狛江元気スクール

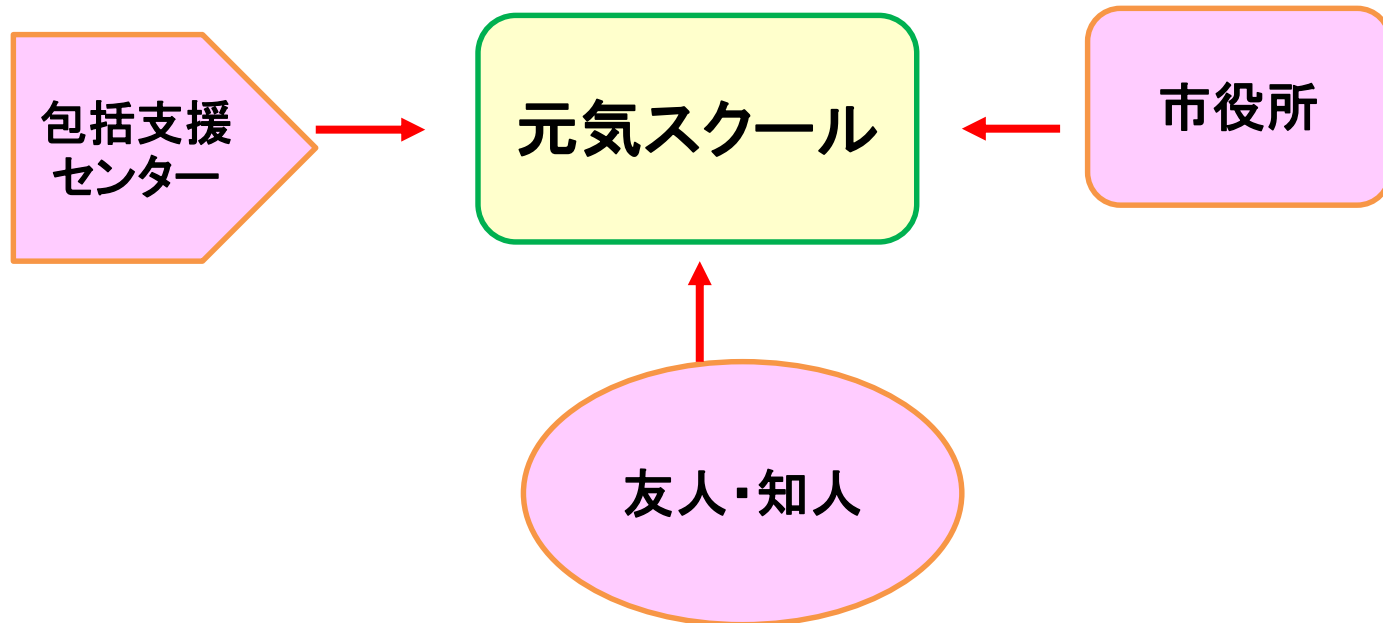
通所型Bを意識したが
自然増でもある

3.和泉元気スクール

29/7 時代の要請
通所型B目標

従来の展開方法

- 紹介と工夫で一本釣り



新団体の設立要件

新
団
体



後からついてくる

要件

① 参加者

② リーダー

③ 会場

④ 講師

⑤ 資金

関連支援

市の講座が原点
留学制度

包括支援

行政・包括

皆の知恵

行政補助

展開の3方式

①留学制度(方式) (参加者を増やす)

狛江市の講講座終了者をエスカレーター方式で既存団体に留学(会費免除)させ、通所型B団体の良さを会得させる→参加(入会)

②苗床制度(方式) (団体を増やす)

◆新設団体のペイラインは20名、半数までを此処でプール、同時に半数を既存団体から移籍して、スタートから安定した運営を図る制度(株分け)

◆リーダーを現場実習で養成する

③協業制度(方式)

会員の無料振替出席制度 共同購入でコストと在庫の圧縮等当初から安定したスタートが出来る様に予め制度として協業の基本を確立しておく

一本釣り→投網

原点は自治体が行う会議予防講座

狛江市
介護予防講座

留学制度

野川元気
スクール

狛江元気
スクール

和泉元気
スクール

現在定員余力
各10名程度

講座の規模
年4回
100名程度

昨年 制度前の増加は
年間17名では1団体増
設には不足

定員各35名程度

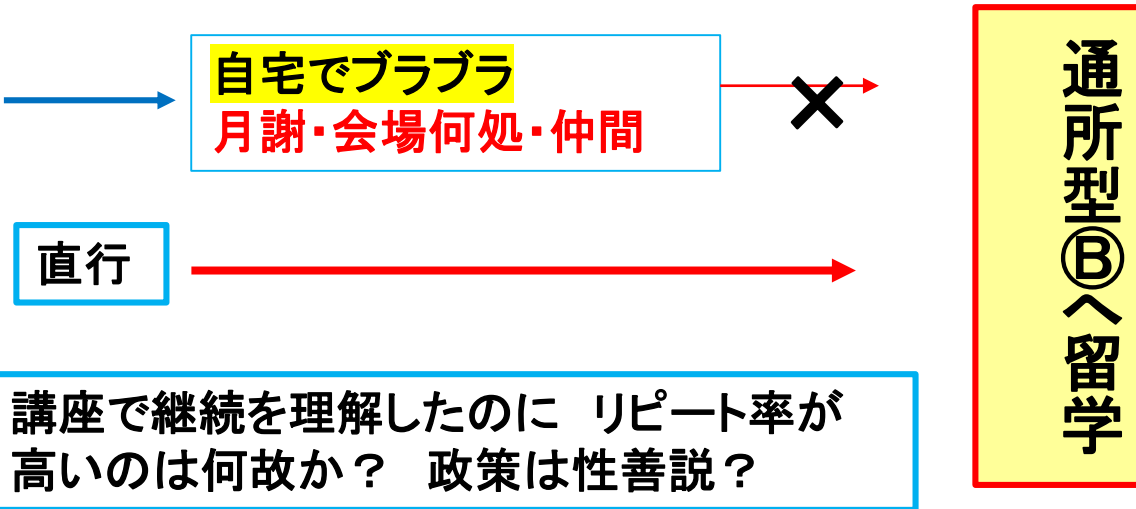
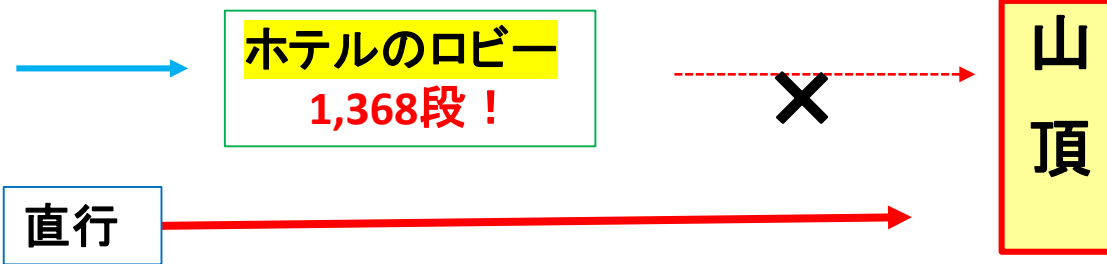
①留学制度（自治体の講座に直結）

- 新入会員を増やす 講座修了者をエスカレーター式で留学させBの良さを会得させる

金毘羅参り



講座終了者



自治体が行う講座→総合事業B型へ直結

幸いに 講座は参加者が多く、且つ意識も高い
留学は講座時代と同じく無料 仲間是一緒・会場も地元・
抵抗感はない 直ぐ→通所型Bへ留学→入会へ

日頃の見学者の入会率は100%に近い

入会申込時にTシャツは？の質問が出るので自信は充分
制度実現すれば 一年後の木阿弥はなくなる

→介護予算の節減→要介護1が1名元気になれば180万円
この発想は誰でも有るが、市の制度に組み込むことが先決
留学費用負担は何処で？ 議論は不要 35名定員のバス
は空席が有れば乗せてあげよう！

昨年 自然増の新入会員は17名 増加率22%では
安定した新団体を設立するにはギリギリの人数

② 苗床制度

昨年7月 第3の団体 和泉元気スクールを
設立時に採用し、安定運営基準会員数
20名でスタートした実績あり

③協業制度

自己都合のための欠席者の振替出席制度は活用されている 実施

共同購入でコストダウン と 在庫圧縮
Tシャツ・五本指つぼプリントソックス等 実施

在庫圧縮
プリンターインク・用紙等 実施

会報 基本共通＋独自記事等 実施

今後はボランティアの人的費が増嵩する可能性を勘案し
独自性よりは合理性に重点を置いた